



3色の「かがり弁」シリーズ

## 華麗な花びらの輪ギク新品種 「かがり弁」シリーズを開発

(平成30年2月品種登録出願公表)



「かがり弁」ギクを用いた  
ビクトリーブーケ

(提供: 名古屋生花小売商業協同組合)

愛知県は全国一の輪ギク生産県ですが、近年輪ギクの需要は減少傾向にあります。今回、輪ギクの新規需要開拓をめざして、華麗な花びらが特長の新品種「かがり弁」シリーズを開発しました。

本品種は、花びらの先端が複数の突起に分かれたかがり弁になっています。白、赤紫、黄の3色があり、美しい花を2週

間以上楽しむことができます。平成29年12月のフィギュアスケート大会でビクトリーブーケに採用された実績もあり、今後、結婚式やフラワーアレンジメントなど、様々なシーンでの利用が期待できます。

平成30年12月から本格的な出荷が始まります。

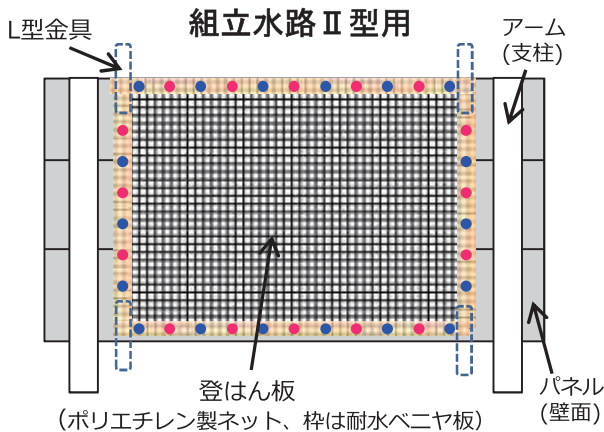
(東三河農業研究所、環境基盤研究部)

本品種は愛知県と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構との共同開発品種です。

## 「田んぼにカエルの脱出ネット」を開発



※組立水路とは・・・  
 U字型の支柱(アーム)と壁面(パネル)を組合せたコンクリート製水路のこと。  
 「Ⅰ型」は、水路内の壁面に支柱が出て凸凹している。  
 「Ⅱ型」は、水路内の壁面に凸凹がない。



### 【設置マニュアル】



(豊富な写真と図で設置のポイントや手順をやさしく解説)

農村地域には、多様な生物が生息しており、これらを保全するためには良好な環境と移動経路の確保が必要です。中でもカエルは、害虫を食べる一方でサギなどのエサにもなり、田んぼ周りの生態系を支える重要な生き物です。

最近の水路は、コンクリート製のものが増えたため、愛知県絶滅危惧種のナゴ

ヤダルマガエルを始め、壁面を登ることが苦手なカエルの移動に支障をきたしています。

そこで、カエルが容易に壁面を登れるようポリエチレン製ネットを用いた2種類の「田んぼにカエルの脱出ネット」を開発しました。

(環境基盤研究部)



## 「フクユタカA1号」を新たな大豆奨励品種に採用



「フクユタカ」と「フクユタカA1号」の草姿

「フクユタカA1号」の栽培特性

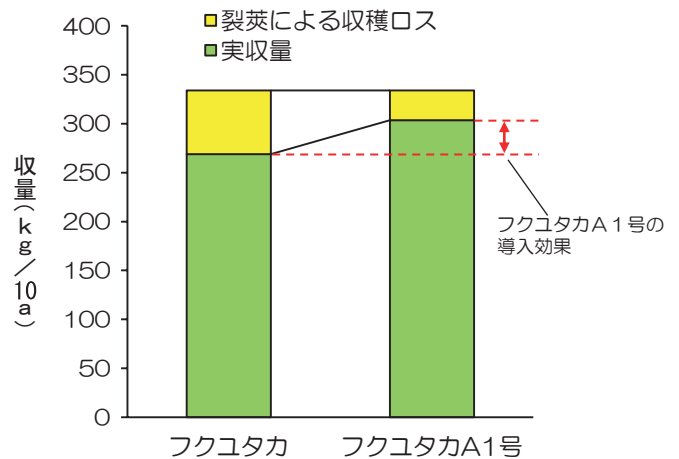
品種名	ほ場数 (延べ)	主茎長 cm	主茎 節数 節	一次 分枝数 本/株	総莢数 個/株	子実重 kg/10a
フクユタカ	22	69	15.2	4.5	63.6	289
フクユタカ A1号	22	66	14.4	4.4	64.5	303

(平成24年～29年 愛知県内現地試験ほ場 平均)

「フクユタカ」よりも「フクユタカA1号」の方が  
莢が割れにくい



裂莢性の比較  
(60℃ 9時間 乾熱処理後)



「フクユタカA1号」の導入効果  
(平成27年安城市、同28年豊田市の平均)

本県で栽培されている大豆品種「フクユタカ」は豆腐用の大豆として人気があります。しかし、収穫の遅れやコンバイン収穫による莢割れ（裂莢）が発生しやすく、収穫時のロスが問題となっています。

そこで、「フクユタカ」の裂莢性を改良した「フクユタカA1号」（平成26年農研機構により品種登録出願）について、本県における栽培適性を調査しました。

その結果、「フクユタカA1号」は「フクユタカ」と同等の栽培特性を持ち、裂莢による収穫ロスが少なく、実収量の増加が期待できることから、平成29年に新たな大豆の奨励品種に採用しました。

「フクユタカA1号」の一般栽培に向けて、平成30年度から採種農家のもとで種子生産を始めています。

(作物研究部)

# 研究トピックス

## ウメ輪紋ウイルスの罹病樹伐採による媒介虫保毒率の減少を確認

ウメ輪紋ウイルス（PPV）によるウメ輪紋病は、県内では平成26年度に尾張北部地域で発生が確認され、植物防疫法に基づくPPV罹病樹伐採等の撲滅事業が行われています。PPVはアブラムシ類によって媒介されるため、現地ほ場で採集した有翅アブラムシ類のPPV保毒状況を調査しました。その結果、平成27年度に10%以上あった保毒虫率が、



罹病樹を伐採した平成28年、29年度には0%となり、伐採の効果が確認できました。

（環境基盤研究部）

PPVによるウメ輪紋病

本研究は農林水産省「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」で実施しました。

## 水稻もち品種「こはるもち」を奨励品種に採用

愛知県農業総合試験場が開発した中生熟期の水稻もち品種「こはるもち」（平成26年品種登録）を、本県の奨励品種に採用しました。

「こはるもち」の米粒は極めて大きく、おこわにした時に見栄えが良く、味やねばりが優れています。また、イネ縞葉枯病の抵抗性を持ち、収量性の点でも、これまでのもち品種より約10%の増収が期待できます。

2019年度より一般栽培が開始される予定です。（作物研究部）



玄米の外観（左：こはるもち、右：十五夜糯）

## 無加温栽培が可能な鉢物品目にローズマリーを選定

鉢物の生産現場では、コスト削減のため、加温を必要としない品目が求められています。

そこで、愛知県農業総合試験場では無加温栽培に向く鉢物の選定を行い、7品目の中からローズマリーが最も適していることを明らかにしました。11月に無加温ハウスに入れることにより、開花が1か月早まります。



ローズマリーの栽培状況

今後、施肥方法や温度に対する開花反応等について試験し、3月から4月の鉢物需要期に出荷できるよう栽培技術を確認します。

（園芸研究部）

## 極少量の精液で豚人工授精が可能に

養豚経営の中で、人工授精の利用が年々増加しています。そのメリットの一つが、優秀な雄豚から採取した精液を、一度に複数の交配に利用できることです。「性ホルモン」で排卵時期を制御すると同時に、「子宮深部注入カテーテル」で子宮の奥深く精液を注入する新たな人工授精手法を用いると、通常の1/40の精液量で、従来と同等の受精成績が得られることがわかりました。（畜産研究部）

### 人工授精手法の違いと受精成績

項目	通常的手法	今回の手法
精液量(ml)	100	2.5
受精率(%)	93	90
受精卵数(個/頭)	15.7	17.7

注) 精子数はいずれも1億/ml  
受精率=受精卵数/排卵数



子宮深部注入カテーテルを用いた人工授精

### 研究短報 第122号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線322 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>